

平成4年度農業観測の概要について

農林水産省大臣官房調査課

河 本 幸 子

はじめに

農林水産省は昭和27年から農産物及び農業生産資材等にかかわる需給、価格等の動向の分析及び見通し等を内容とする農業観測を作成、公表しています。

「平成4年度農業観測」は、農林水産統計観測審議会の審議を経て、6月12日公表されましたので、その概要を紹介します。

なお、農業観測の作成に当たっては、作柄は平年作を前提としており、また、見通しは幅を持った表現としています。説明中に用いられている変動幅は表1のとおりで、いずれも前年度に対するもので、変動の幅が区分をまたがる場合は「わずかなしやや」等の表現を用いています。(表1)

表 1 変動の幅をあらわす用語

わずか	±2%台以内
やや	±3～5%台
かなり	±6～15%台
かなりの程度	±6～10%台
かなり大きく	±11～15%台
大幅に	±16%以上

1. 農業経済

(1) 国内経済

我国経済は、昭和61年末以降、内需主導による

長期の景気拡大を続け、2年度の経済成長率は5.5%となりました。しかし、3年度に入ってから、輸出は強含みですが、個人消費の拡大テンポが減速し住宅建設も減少するなど長期にわたった景気拡大が減速し、調整局面にあります。

また、労働力需給は依然引き締まり基調で推移していますが、有効求人倍率が低下傾向にあり、完全失業率も下げ止まるなど緩和のきざしがみられます。

4年度は、前半は減速傾向が続くとみられますが、後半は緩やかな回復が見込まれます。なお、政府経済見通し(平成4年1月24日閣議決定)によると4年度の実質経済成長率は、3.5%程度と見込まれています。

(2) 食料消費

食料消費の動向を経済企画庁「国民経済計算」でみると3年度の実質飲食費支出は、台風等の気象被害による野菜、果実の出回り減及び価格上昇、外食等の伸び悩み等から1.7%程度の増加にとどまったとみられます。

なお、実質民間最終消費支出と実質飲食費支出との間には強い相関関係がみられ、2年秋頃からの実質民間最終消費支出の伸びの鈍化は最近の実質飲食費支出の伸びの鈍化の背景とみられます。

本 号 の 内 容

§ 平成4年度農業観測の概要について	1
--------------------	---

農林水産省大臣官房調査課

河 本 幸 子

§ 肥料の来た道、帰る道	6
--------------	---

9. 戦争と肥料の奇妙な関係

京 都 大 学

名誉教授 高 橋 英 一

4年度の実質飲食費支出は、実質民間最終消費支出が引き続き増加すると見込まれていること、食料品消費者価格がわずかな上昇にとどまるとみられること等から、わずかに増加すると見込まれます。

(3) 農業就業人口

農業就業人口は、引き続き減少傾向にあります。3年度は景気が減速し、労働力需給も緩和の兆しがみられること等から2年の減少率を下回る3.1%減と減少率が鈍化し、380万人となりました。

4年度は、引き続き減少するとみられますが、労働力需給に緩和のきざしがみられること等から減少率は鈍化し、わずかな減少にとどまるものと見込まれます。

(4) 農業生産資材価格

3年度の農業資材の農村価格（農家購入価格をいう。以下同じ。）についてみると、畜産用動物は肉用子豚が上昇したものの、牛肉の自由化の影響から肉用牛子牛が下落したため5.0%下回り、飼料も配合飼料価格が円高等により引き下げられたことから1.6%下回りました。一方、肥料、農薬、農機具等は価格改定の影響等により上昇したため、農業資材総合では、1.1%の上昇となりました。（表2）

4年度の農業資材の農村価格は、光熱動力、畜

産用動物はわずかないしやや下回りますが、肥料、農薬等はわずかに上回ることから、農業資材総合では、ほぼ前年度並みと見込まれます。

2. 農産物供給

(1) 農業生産

3年度の農業生産は、耕種が低温、台風等の気象被害を受け、米、果実、野菜等が減少したことから7%程度減少したとみられます。畜産については、豚、ブロイラーが減少しましたが、肉用牛、鶏卵、生乳等が増加したことから、0.7%程度増加したとみられます。この結果、農業生産総合では5%程度減少したとみられます。

4年度は、作柄を平年並みとすれば、米は転作等目標面積の軽減による作付面積の増加、果実はりんご等の増加、野菜は、夏秋野菜及び秋冬野菜を中心とした増加によりそれぞれ増加すること等から、耕種はかなりの程度増加すると見込まれます。また、豚が子豚生産頭数の減少、ブロイラーが食鳥処理場の人手不足等から、それぞれ減少しますが、肉用牛が子牛生産頭数の増加、鶏卵がひなえ付け羽数の増加からそれぞれ増加すること等から、畜産総合ではわずかに増加すると見込まれます。この結果、農業生産総合では、かなりの程度増加すると見込まれます。（図1）

(2) 農産物輸入

3年度の農産物の輸入数量は、円高等の影響に

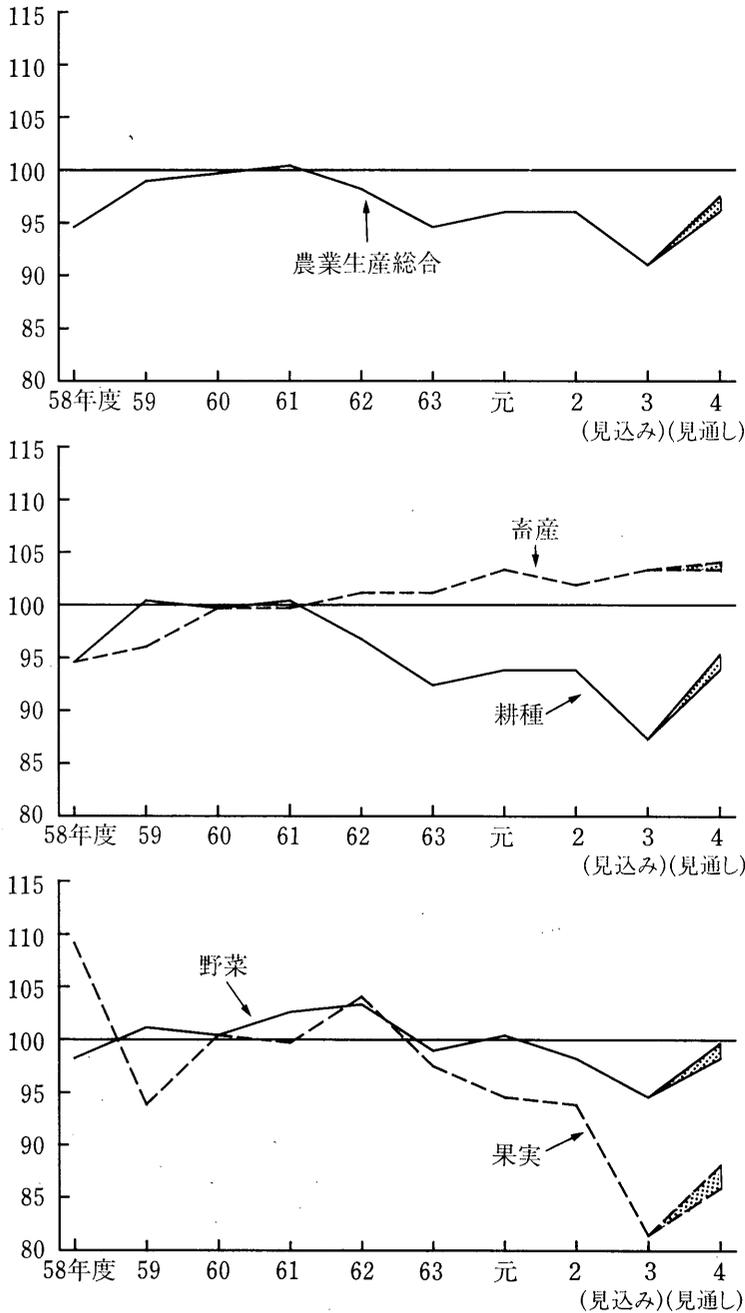
表2 農業生産資材価格指数（対前年度騰落（▲）率）

（単位：%）

	62年度	63	元	2	3 (概算)
農業生産資材総合	▲ 2.1	0.0	3.6	1.2	1.1
種 苗 ・ 苗 木	1.0	1.9	4.6	1.6	3.4
畜 産 用 動 物	7.2	4.5	5.2	▲ 5.4	▲ 5.0
肥 料	▲ 6.9	▲ 2.0	2.1	2.0	3.4
飼 料	▲ 7.5	2.0	8.0	2.7	▲ 1.6
農 業 薬 剤	▲ 2.9	▲ 3.0	1.3	▲ 0.3	1.1
諸 材 料	▲ 3.1	▲ 1.1	1.9	0.6	2.0
光 熱 動 力	▲ 5.4	▲ 6.0	2.3	9.2	0.1
農 機 具	0.1	▲ 0.1	3.0	0.8	3.8
自動車・同関係料金	1.4	1.9	3.1	0.1	1.9
建 築 資 材	3.4	1.0	3.8	2.0	1.0
農 用 被 服	▲ 0.1	▲ 0.9	3.0	0.8	1.6
賃 借 料 ・ 料 金	1.2	0.3	0.4	0.0	1.5

資料：農林水産省「農村物価賃金統計

図1 農業生産指数 (60年度=100)



資料:農林水産省「農林水産業生産指数」
 注:3年度及び4年度は農林水産大臣官房調査課による試算である。

より輸入価格が下落したこと等から、6.0%増と過去3か年と比べ伸び率が高まりました。

4年度の農産物の輸入数量は、円相場の動向等にもよりますが、やや増加すると見込まれます。

主な農産物についてみますと、小麦がわずかな

いしやや増加、とうもろこしがほぼ前年度並み、大豆がやや増加、生鮮オレンジは、寒波の影響を受けたカリフォルニアの生産回復により大幅に増加すると見込まれます。肉類は、牛肉、豚肉がかなりの増加、家きん肉がやや増加すると見込まれます。

3. 農産物生産者価格

3年度の農産物生産者価格は、低温、台風等の気象被害による入荷減から野菜が5.0%、果実が22.8%上回りました。畜産物は、肉豚が9.3%、ブロイラーが3.3%それぞれ上回りましたが、鶏卵が7.9%、肉用牛が5.4%それぞれ下回ったこと等から、2.0%下回りました。この結果、農産物総合では3.8%上回りました。

4年度は、野菜が生産の回復からやや下回ると見込まれます。果実については、みかんが収穫量の減少等からかなりの程度上回りますが、りんごが前年の減産から大幅に回復することからかなり大きく下回るとみられ、果実総合では、わずかないしやや下回ると見込まれます。畜産物については、生乳がわずかに上回りますが、鶏卵が生産量の増加からかなりないし大幅に下回り、肉用牛が牛肉の輸入量の増加等からわずかに下回るとみられ、総合では、わずかに下回ると見込まれます。この結果、農産物総合ではわずかに下回ると見込まれます。

4. 農業生産額

3年度の農業生産額は、農業生産が台風等の気象被害により5%程度減少し、農産物生産者価格が4%程度上昇したとみられることから、1%程度減の12.9兆円程度となったとみられます。

4年度の農業生産額は、平年作を前提とすれ

ば、農業生産がかなりの程度増加し、農産物生産者価格がわずかに下回ると見込まれることからやや増加すると見込まれます。

5. 農業資材のうち肥料部分

(1) 需要

化学肥料の国内需要量は、作付延べ面積が減少していること、稲及び果樹等で単位面積当たりの施肥量が減少傾向にあること等から、減少傾向で推移しています。2肥料年度(当年7月～翌年6月)は、窒素、りん酸、加里ともに減少したため5.1%減となり、3肥料年度の7月～3月間においても3.5%の減少となっています。なお、有機質肥料の農家購入量は、肥料全体に占めるウェイトは小さいものの、農家において有機質肥料の生産が減少していることから増加傾向で推移しています。2肥料年度の有機質肥料の購入量は、魚粉が飼料との競合により減少したため前年度より減少しましたが、過去10年間で2.2倍(2肥料年度

供給量、478万トン)となりました。(図2)

(2) 価格

化学肥料の全農購入価格は、61肥料年度以降円高や原材料価格の低下等を反映して、引き下げられてきました。

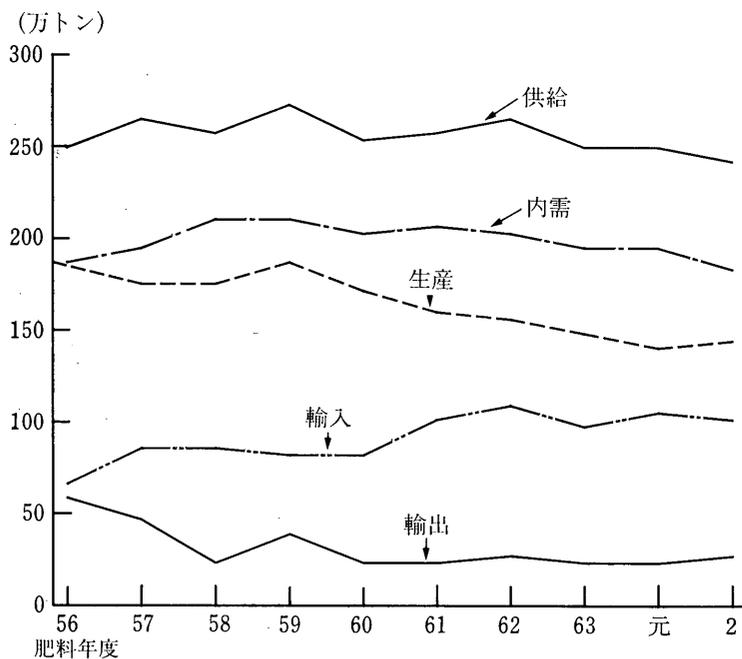
2肥料年度は、円安等による原材料価格の上昇に加えて、物流経費等の上昇により2年7月から3.86%の引き上げとなりました。その後、3年1月には、窒素質肥料については、湾岸危機の影響により主原料であるナフサ、LPG等の価格が高騰したこと等による引上げ、りん酸質肥料及び加里質肥料については、円高等により加里塩、りん鉱石の輸入価格が下落したこと等による引下げを内容とする期中改定が行われ平均0.14%の引き上げとなりました。3肥料年度は、塩化加里、りん鉱石等の国際市況の上昇、海上運賃の上昇等による物流経費の上昇等から平均3.30%引き上げられました。

このような化学肥料の価格動向により、3年度の農村価格は3.4%の上昇となりました。

おわりに

以上平成4年度の農業観測の概要を紹介しました。農業観測の冊子では、個別農産物ごとにも生産、価格の見通しに関する詳しい分析を、農業生産資材についても、肥料だけでなく農機具、農薬等個別資材ごとに需要と価格の見通しに関する詳しい分析を行っています。また、昨年からは本編をコンパクトにまとめたカラー印刷の概要版も公表していますので是非御一読頂き参考にしていただければ幸いです。

図2 肥料の需給(N, P, K成分換算)



資料：農林水産省調べ、通商産業省「肥料受払統計」、「加里肥料受払統計」

注：1) 窒素、りん酸、加里の成分量である。

2) 窒素質肥料の生産、輸入及び輸出には工業用を含む。

3) 加里質肥料の輸入には国産硫酸加里原料用を除いたものである。